

目次／テーマ展 ふしぎな縄文 表紙／いわて文化ノート ユネスコ無形文化遺産と岩手～世界遺産との比較～p.2-3／展覧会案内 テーマ展 ふしぎな縄文p.4-5／展覧会報告 特別展「ポケモン化石博物館」を終えて／事業報告 いわて自然史展示室 リニューアルp.6／事業報告 博学連携事業 岩手県立盛岡峰南高等支援学校との新たな連携事業／活動レポート チャレンジ!はくぶつかんp.7／インフォメーションp.8

テーマ展

ふしぎな縄文



むかしむかしの人たちは  
へんてこなものを作っていました…

2024.6.8(土) → 8.25(日)

縄文時代の、目的や使い道も不明、少し変わった形の出土品を一堂に集め、その奥深い魅力をご紹介します。

## ■いわて文化ノート

## ユネスコ無形文化遺産と岩手～世界遺産との比較～

民俗部門 上席専門学芸員 戸根 貴之

## はじめに…ユネスコ無形文化遺産に関する情報の少なさと世界遺産との混同

これまで文化財の保護や世界遺産を担当してきた筆者は、昨年民俗担当として赴任しました。これまでの業務の中で、ユネスコ無形文化遺産に関するまとまった情報の少なさ、無形文化遺産と世界遺産の混同について感じるものがあつたことから、世界遺産と比較しつつユネスコ無形文化遺産の理念や制度について解説し、併せて岩手所在のユネスコ無形文化遺産について紹介したいと思います。

## 1 ユネスコ無形文化遺産とは

国連の専門機関であるユネスコ（国連教育科学文化機関）の任務のひとつに「世界の遺産である図書、芸術作品並びに歴史及び科学の記念物の保存及び保護を確保し、且つ、関係諸国民に対して必要な国際条約を勧告すること」という項目があります。これに基づいて制定されたものに「無形文化遺産の保護に関する条約（無形文化遺産保護条約）」があり、これで保護されているものをユネスコ無形文化遺産といいます。通称「世界遺産条約」のような、建造物など有形のものを対象とした条約に対し、無形文化遺産保護条約は、伝統芸能などの無形文化遺産を消失の危機から保護し、次世代へ伝えていくための国際的な協力及び援助の体制を確立することを目的とし、2003年に定められ、2006年に発効しました。日本は世界で3番目の2004年に締結しており、今年で締結20年を迎えます。2023年12月現在、締約国は182か国を数えます。

無形文化遺産保護条約において、無形文化遺産とは、慣習、描写、表現、知識及び技術並びにそれらに関連する器具、物品、加工品及び文化的空間であつて、社会、集団及び場合によっては個人が自

己の文化遺産の一部として認めるものと定義されます。

ユネスコ無形文化遺産には①緊急に保護する必要のある無形文化遺産の一覧表、②人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（代表一覧表）、③無形文化遺産保護のための計画・事業・活動の登録簿、の3つのリストがあり、2023年12月現在、計730件が記載されています。

## 2 ユネスコ無形文化遺産がもつ特徴

ユネスコ無形文化遺産にはいくつかの特徴があります。ここでは主なものを取り上げます。

## ・無形文化遺産の対象とする範囲は、文化財保護法で保護される範囲より広い

現在、日本が無形文化遺産への提案対象としているのは、各一覧表への記載基準で締約国の目録に記載されていることが必要とされているため、原則文化財保護法で保護されている無形文化財・無形民俗文化財・文化財の保存技術になっています。一方、ユネスコ無形文化遺産では上記に加え、①口承による伝統及び表現、②自然及び万物に関する知識及び慣習、が対象として加わっており、幅広く対象としていることが分かります。

## ・基準に遺産価値に関する項目はない

各一覧表への記載にあたっては、記載基準の全てを満たすことが必要ですが、基準の中に遺産の価値を判断する項目はありません。これは、保持するコミュニティを重視するため、世界遺産条約と異なった精神で無形文化遺産保護条約が運用されており、遺産の顕著な普遍的価値や真正性などを求める世界遺産とは大きく異なります。

無形文化遺産は世界遺産の無形版と理解されている方がいるかもしれませんが、相互に関連はあるのですが、保護や記載に対する考え方等が無形文化遺産と世界

遺産では異なることから、無形文化遺産は世界遺産の無形版ではないことを理解する必要があります。

また、日本国内においても下記の特筆される項目があります。

## ・個別提案からグループ提案への変化

日本のユネスコ無形文化遺産は2023年12月現在、代表一覧表に22件記載されていますが、この数はある時期を境に増加のスピードが落ちます。その理由は、一覧表への記載を審査する2011年の無形文化遺産の保護のための政府間委員会（以下、政府間委員会）で日本提案の案件が、これまでに代表一覧表に記載されたものに似ているため、情報照会となったことがきっかけです。これ以降、国としての方針が、個別提案から既登録案件に追加提案するグループ提案に方針が変わります。無形文化遺産が記載されるとニュースに取り上げられますが、日本の記載数自体は2014年以降それほど増えていません。

※ユネスコ無形文化遺産の評価は、「記載」、「情報照会」、「不記載」の3段階です。

## ・提案プロセスに地方公共団体が関わらない

日本では、一覧表への記載のための提案書の作成は国主導で行なわれており、地方公共団体が関わることはありません。理由のひとつとして、先に述べたグループ提案が関係します。グループ提案では、専門家による協議を経て決定されることとなるため、地方公共団体が提案に関わる余地がないのです。推薦書作成に地方公共団体が関わる世界遺産とは状況が異なります。

※ユネスコへの提出書類を無形文化遺産では提案書、世界遺産では推薦書といいます。

## 3 岩手所在のユネスコ無形文化遺産

現在岩手県に関係するユネスコ無形文

化遺産は4件あります。ここでは各案件について紹介します。

#### (1) 早池峰神楽 (2009年記載)

花巻市大迫町の岳・大償に伝承される神楽で、早池峰山を霊峰として仰いだ山伏修験者が演じたものといわれています。

室町時代に能が大成する以前の姿をうかがわせるなどの特色があります。



早池峰神楽 (2023年8月撮影)

#### (2) 来訪神：仮面・仮装の神々 (2018年記載)

仮面・仮装の異形の姿をしたものが、「来訪神」として正月などに家々を訪れ、怠け者を戒め、人々に幸福をもたらす年中行事です。8県で伝承される10件の行事で構成されます。文化の多様性及び人類の創造性を示すものであることなどについて評価されました。

大船渡市三陸町吉浜地区では、毎年小正月（1月15日）の夜に恐ろしい面をつけて家々を訪れる行事「吉浜のスネカ」が行われています。

#### (3) 伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術 (2020年記載)

日本では、自然素材を建造物に生かす知恵が昔から受け継がれ、その知恵を体現する技術が育まれてきました。そのうち、木造建造物の修理を担う17種の技術が、有形文化財を継承するための保存技術として密接に関わっていることがよく説明され、持続的利用にかなっていることなどが評価され、記載されました。

二戸市浄法寺町などで行われている日本産漆生産・精製が含まれています。

#### (4) 風流踊 (2022年記載)

風流踊とは、盆踊りや念仏踊りなど、各地の歴史や風土に応じて伝承されてきた民俗芸能を指します。華やかな、人目を惹くという「風流」の精神を体現し、にぎやかに踊ることで災厄を祓い、安寧な暮らしを願います。多様なコミュニティにより実践されてきた儀式的踊りであり、国際的な対話と交流が促進されることなどが評価されました。

24都府県に伝承される41件が記載され、岩手県からは「永井の大念仏剣舞」と「鬼剣舞」が記載されています。

##### A 永井の大念仏剣舞

盛岡市の永井地区に、寛政年間（1789-1801）頃もたらされたといわれます。大笠を用いた演目が特徴で、四方の門を先祖の霊が順番に通り返ることで鎮魂されるといわれています。

##### B 鬼剣舞

忿怒の形相の仮面をつけ、極めて勇壮で力強く踊る剣舞で、岩手県中・南部に伝承されています。亡魂鎮送を目的とした念仏踊りの一種です。

北上市の岩崎及び滑田の鬼剣舞、奥州市胆沢の朴ノ木沢念仏剣舞、衣川の川西大念仏剣舞の4つで構成されます。なお、川西大念仏剣舞は世界遺産「平泉」において、浄土思想に関わる無形の要素として説明されています。



中尊寺本堂前における川西大念仏剣舞 (2023年11月撮影)

※ほかに、一関地区のもち文化などを含む「和食：日本人の伝統的な食文化」が地域を特定しないものとして記載されています。

#### 4 今後に向けて

ユネスコの無形文化遺産と世界遺産は、保護やリストへの記載に向けた考え方で違いがみられ、そのことにより、手続きも異なっています。それぞれの異なる成り立ちを理解できれば、混同はなくなると思えます。この違いを理解していただくために、いわて文化史展示室には無形文化遺産と世界遺産の概要をまとめたパネルを展示していますので、来館の際にはご覧ください。

さて、現在「伝統的酒づくり」がユネスコ無形文化遺産に提案されており、12月にパラグアイで開催予定の第19回政府間委員会で審議されます。これに伴い、今後岩手の酒をテーマとした展覧会を計画しています。岩手には日本三大杜氏といわれる「南部杜氏」がいることから、これらの資料を中心にして調査を行い、成果を報告していければと思います。



南部杜氏の酒造用具 (花巻市石鳥谷歴史民俗資料館蔵) (2023年7月撮影)

#### 参考文献

今石みぎわ 2018 「ユネスコ無形文化遺産とその制度」『無形文化遺産への道 ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産 (第12回無形民俗文化財研究協議会報告書)』

東京文化財研究所 2020 『無形文化遺産用語集』 など

## ■展覧会案内

## テーマ展 ふしぎな縄文

会期：令和6年6月8日(土)～8月25日(日) 会場：オザワ工業ギャラリー（当館特別展示室）

## ■はじめに

みなさんは「縄文時代」と聞いてどんなイメージを思い浮かべるでしょうか？ 竪穴住居に暮らし、木の実の採集や獣を狩って暮らす日々、あるいはストーンサークル、貝塚などかもしれません。身近な例では、近くの畑でやじりや土器片を拾ったご経験をお持ちの方もいらっしゃるかと思います。

特に近年では北東北～北海道の著名な縄文遺跡が世界遺産に登録され、各地の史跡公園や博物館などで縄文時代の出土品を目にする機会もたくさんあります。多くは“縄文のシンボル”とも言える遮光器土偶や火炎土器をはじめとして、独特な造形美が鑑賞されることが多いようです。そうした美的に優れる「縄文作品」の一方で、多様な出土品の中には「なんだこれは？」としか言いようのない、へ

ンテコなものも確かに存在します。今回の展覧会ではそうした説明のしづらいの、ちょっとふしぎな縄文時代をご紹介しますしていきます。

## ■考古学の弱点

考古学を一言で表すと、過去の人類文化について、物質を材料として研究する学問です。モノを調べることがスタートになるため、何年前に、どういう素材でどんな製法で作られたのか、壊れる前はどのくらいの大きさがあったのか、といった物理的な状況を確認するのはお手の物。ところが、これを作った人間が何を考え、何を目的としていたのか、といった人間心理に関わる部分が弱点で、現在の民族例なども参照しながら、推測に推測を重ねることになります。

縄文時代にはヤジリや石のナイフ、煮炊き用の土器といった、機能優先の道具

はともかくとして、いわゆる「第二の道具」と呼ばれるような、祭祀に関わると考えられるもの、おそらく精神的な意味を持たされた道具も数多くみられます。ところが実際のところ、これらを作った縄文人のメンタリティに分け入ることは、タイムマシンがない以上困難です。特に数千年の間に生活スタイルはもちろん、人々の意識や宗教観も大きく変わってきました。現代の私たちが当時の人間の意識に迫ることはできるのか？ デザイン・文様に込められた意味を考える、というチャレンジはもちろん重要ですが、その一方でまずは彼らが作ったモノを素直に鑑賞し、造形としての面白さを楽しむのも縄文時代に接近する方法の一つかもしれません。

## ■ふしぎな土器

縄文時代を通じて、日常の生活用具として土器は重要な位置を占めています。大多数は火にかけて調理を行うための形をキープした上で、それと同時に表面が様々な装飾に彩られます。その中には、普通に考えればじゃまといしか言いようがない、機能を無視したような突起を持ったり、全体の形も一筋縄ではいかない土器も少なくありません。左の写真にあるように、中空のドーナツに注ぎ口を加えた凝ったデザイン、巻貝の形に似せたフォルムの土器なども。どうしてこんなものを作ろうと思ったのか、疑問は増すばかりです。

## ■脱力系の土器もある

縄文土器の大半は均整の取れたスタイル、丁寧なつくり、きっちりとパターンを繰り返す「出来の良い土器」ですが、その一方で子どもの落書きにも見える少し崩れた「テキトー」な文様や、形も傾いたりして脱力したような土器の存在も目を引きます。特に、縄文時代晩期の見



各種土製品・石製品・骨角貝製品

「異形土器、土偶、土版、岩版、垂飾品、髪飾り、装身具類」といったように、素材や形、用途を示す名称ですが、必ずしも目的を正確に表現しているという保証はありません。当館蔵

事な土器に混じるそうした<sup>ちせつ</sup>稚拙な土器の存在から、次のような面白い仮説も考えられています。丁寧な土器は限られた村で専門職人が作り一定範囲に流通していた、稚拙な土器は日常使いの土器とともにそれぞれの村で作られた、と。土器の移動を実証できれば解決の糸口になり、当時の社会の様子を探ることに近づきます。それはさておき、あからさまな力の抜け具合を見ると、作った人への親近感すら覚えます。



#### 脱力系の土器文様

こどもの落書きのような、「へなちょこ」な文様が目を引く土器。きっちりしたデザインが多い縄文時代晩期にあって異質です。二戸市雨滝遺跡 当館蔵

#### ■粘土細工のふしぎ道具

「スタンプ形土製品」「鐸形土製品」「キノコ形土製品」「斧形土製品」…… 縄文人は土器や土偶の他に、実に様々な土製品を作っています。先の名前は皆、その形状から名付けられていますが、例えばスタンプ形土製品を当時の人たちが「スタンプ」として用いたかどうかはわかりません。一説には木の実や肉を材料に作ったハンバーグ状の食べ物に型を押したのだ、等とされていますが、ひもを通す穴が開けられておりアクセサリーの一種とも。こうした用途不明の道具類は「祭祀遺物」とひとくくりにされることが多く、科学分析によって用途を探る試みもありますが、確かな説明にはたど



#### スタンプ形土製品

つまみを持ちあたかもスタンプのよう  
縄文時代後期 盛岡市川目A遺跡  
岩手県蔵 (公財) 岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター写真提供

り着いていないのが正直なところ。他にも、キノコ形土製品は縄文人が作った立体キノコ図鑑だ、いやいや土器の蓋にしたのだ、と論争は止みそうにありません。言い換えれば、自由に想像を巡らせる楽しみも残されています。

#### ■石でできたふしぎ道具

粘土細工は造形の自由度が高く、ほぼ意図通りに仕上げることができますが、石を素材としたものは元の形に規制され、単純なスタイルの製品が一般的です。それでも工夫をこらして文様を刻み込んだり、穴を開けたり、細長い石棒・石刀も数多く作られました。仕上げるまでには長い時間と根気が必要だったはずなので、情熱を注ぐだけの意義を見いだしていたのでしょう。



#### 人面付石製品

加工しやすい軽石が素材。右は少し不気味でも人面と想像がつかますが、左はたして顔？  
縄文時代中期 大船渡市長谷堂貝塚  
岩手県蔵 (公財) 岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター写真提供

#### ■「ふしぎな縄文」展覧会の見どころ

ここでご紹介した他にも、様々なポーズの土偶、身近な動物の表現、豊穡の祈りが込められた“性”表現の数々など、「きれいで見事」以外にも縄文人が残してくれた、「少しふしぎでヘンなものたち」を楽しんでいただければと思います。

ちなみに、今回の展示品は岩手県内の出土品に限定しています。「縄文王国」とは山梨県のキャッチコピーですが、岩手県も同じく縄文遺跡の宝庫です。世界遺産の一戸町御所野遺跡をはじめ、大小様々な集落遺跡、沿岸の貝塚群、北上山地の洞穴遺跡等々。あまり知られていないお国自慢では、土偶の数は日本一なのです(8千以上)。多様な自然環境のもとで育まれた縄文時代の歴史が、岩手の土地にしっかりと刻みこまれている様子もご覧ください。

(学芸課長 高木 晃)

#### 関連事業

(詳しくはインフォメーション欄をご覧ください)

#### ■対談「縄文のふしぎ」

7/14(日) 13:30~

吉田泰幸氏×望月昭秀氏

当館講堂・当日受付・聴講無料

#### ■県博日曜講座(展示関連講座)

6/23・8/11・8/25

各回13:30~

#### ■こどもジョウモン教室

7/27・7/29・8/5・8/10

各回13:30~14:30

当日受付・要入館料

対象：小学生と保護者10組

#### ■「縄文美術館」写真展

要入館料

写真家小川忠博氏撮影の迫力ある

写真をお楽しみください。

## ■展覧会報告

# 特別展「ポケモン化石博物館」を終えて

館長 高橋 廣至

令和5年12月19日（火）に開幕した特別展「ポケモン化石博物館」は、今年3月3日（日）に無事に閉幕となりました。

「ポケモン化石博物館」は、人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズに登場するカセキから復元される「カセキポケモン」と私たちの世界の化石や古生物とを見比べ、似ているところや違ったところを発見しながら、ポケモンと古生物の両方について楽しく学べる全国巡回型の展覧会です。

「ポケモン化石博物館」は、令和3年に三笠市立博物館で始めて以降、当館で8館目の開催となりました。東北地方初開催ということで、岩手県内のみならず、東北各県の多くの方にご来場いただ

き、最終的な来場者数は45,000人を超える大盛況の展覧会となりました。また、通年の入館者数も75,000人を超え、ここ30年の年間入館者数としては、平成7年度に次ぐ二番目の数となりました。冬場の足元の悪い中、お越しいただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。

当館で開催した「ポケモン化石博物館」では、岩手県内で発見されたさまざまな化石も同時にご紹介しました。特に野田村で産出し、今年2月に研究成果が報告されたアンモナイトの化石は多くの方からご関心をいただき、中にはこの化石を見るためにご来場された方もおり、岩手県が誇る多様な化石の魅力についても十分にお伝えすることができたのではないかと思います。

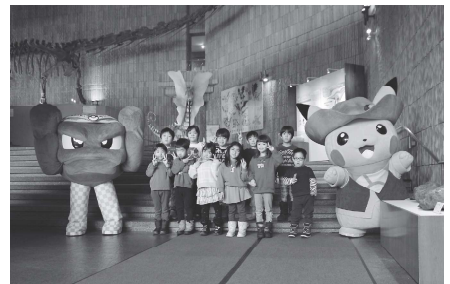


図1. 内覧会イベントの様子

最後になりますが、当館で展覧会を開催するにあたって多大なご協力をいただきました国立科学博物館様、株式会社ポケモン様、総合監修の相場大佑様、各協力館の皆様、そして何よりもご来館をいただきました皆様に改めまして感謝申し上げます。岩手県立博物館では、今後もこうした魅力ある展覧会の開催を目指して参ります。

## ■事業報告

# いわて自然史展示室 リニューアル

オープン：令和6年4月2日（火）～

1階「いわて自然史展示室」をリニューアルしました。引き続き、地質標本と生物標本を中心とした展示ですが、構成やレイアウトが大きく変わっています。その一部をご紹介します。

### ■大地の中の小さな輝き



ケースの照明を一新したことで、鉱物の輝きが一層引き立っています。

### ■地球史の中の岩手

岩手県の化石を観察しながら、地球史を学びます。県産アンモナイトや恐竜化

石（複製）の特設コーナーもできました。



### ■山と森の生きもの



県土を広く占める山地と森林、そこに棲む生物について紹介します。県内主要樹木8種の樹幹標本を見比べるコーナー

もあります。

### ■里と川の生きもの



平野や河川周辺に棲む生物を紹介しません。愛くるしいカモ類は必見です。

ほかにも、「早池峰山の自然」、「浜や海の生きもの」コーナーがあります。夏だけの展示だったカブトムシやクワガタムシは常設展示に加わりました。

紹介し切れない見どころがたくさんあります。ぜひご来館ください。

（主任専門学芸調査員 佐藤 修一郎）

## ■事業報告

# 博学連携事業 岩手県立盛岡峰南高等支援学校との新たな連携事業

体験学習室ハンズオン資料（裂き織による帯）の製作

岩手県立博物館の体験学習室は「触って・着て・遊ぶ」ことのできるコーナーとなっています。このハンズオン資料の中には、岩手県ならではの復元衣装（栗石地方の野良着や大漁バンテン、鹿鳴館ドレスなど）もあり、子どもたちが自由に着用することができ、地域の文化や歴史・伝統を理解する一助になっています。

当館と岩手県立盛岡峰南高等支援学校は、博物館資材をクリーニングするという連携を行ってきた経緯もあり、今年度より新たにハンズオン資料の製作に取り組むことになりました。同校では、専門教科「縫製デザイン」において裂き織を行っており、この技術を活用し、先に展示していた栗石地方の女性用野良着の帯を裂き織で製作していただきました。

当館では、岩手県指定文化財となっている「栗石地方の野良着」一式があり、製作にあたりまずはこれらの資料の学習から始めることにしました。

栗石地方には栗石あねこ風俗と呼ばれる地方独自の野良着が伝承されています。労働用の便利な服という機能に加え、野良仕事においても美しく装うことが付加されています。その帯はかつて裂き織で作りました。これは野良着の上衣の襟元を固定するために用いたもので、前掛けの鮮やかな色布の紐から控えめにのぞかせるように着用したそうです。

これまで、体験学習室にあった野良着は、便宜上前掛けと帯とを一体化したものでした。昔ながらの裂き織で帯を製作し、着用体験コンテンツに加えることが

できました。9点の色とりどりの資料が完成し、2月6日（火）には、綺麗にクリーニングされた資料とともに裂き織の帯の引き渡し式を当館で行い、館長から感謝状を贈呈しました。

自分の好みの色の帯をしめて野良着の着用を楽しんでいただければと思います。皆様のご来館をお待ちしております。



引き渡し後の記念撮影

（主任専門学芸員 近藤 良子）

## ■活動レポート

## チャレンジ！はくぶつかん

当館では、主として毎月第2、3土日（詳細はHP館内掲示等をご覧ください）に、小学生向けイベント、「チャレンジ！はくぶつかん」を開催しています。総合受付で「チャレンジシート」を受け取り、そこに書いてあるクイズに館内の展示資料を見ながら答えるというものです。

展示資料近くにチャレンジマークが貼ってあり、何色のマークかを答えるのが主なクイズなので、小さいお子様でも参加でき、兄弟姉妹やその他ご家族みなさまで楽しく探しながら広い館内を見学できます。毎月異なるテーマで問題が作られていますので、新たな展示資料の発見にもなり、まさに博物館ならではのクイズと好評です。

「チャレンジ！はくぶつかん」に挑戦

すると、カードにスタンプがもらえます（各月に1個）。スタンプが4個たまると、受付で景品の文房具と交換できます。毎月挑戦して12ヶ月分のスタンプがたまると、来館時に皆勤賞の表彰を行い、記念品を差し上げます。

令和5年度は28人の皆さんが最優秀チャレンジャー（皆勤賞受賞者）となり、晴れがましい笑顔が見られました。今年



度も子供たちの挑戦を心よりお待ちしております。

★☆☆おめでとうございます★☆☆

- 6回目 小笠原多映さん 櫻田真尋さん  
櫻田悠悟さん 滝村菜々子さん  
5回目 大林美萌さん 金子侑隼さん  
金子莉子さん 工藤歩由さん  
滝村紗和子さん  
3回目 近藤綺音さん 近藤颯祐さん  
2回目 川嶋柚葉さん 佐々木新さん  
篠田 誠さん 山仁祐奈さん  
1回目 13名の方々

※最優秀チャレンジャーの皆さんの表彰風景は館内2階のミニプラザ掲示板にてご紹介させていただいております（許可をいただいたもののみ）。

（専門学芸員 村田 雄哉）



# 岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

## インフォメーション

〈令和6年6月1日～令和6年9月30日〉

### お知らせ

- 夏休み期間中の臨時開館  
7月29日(月)、8月5日(月)、8月13日(火)は、休まず開館します。
- 資料整理にともなう休館  
資料整理のため、9月1日(日)～9月10日(火)は休館します。
- 敬老の日  
9月16日(月)の敬老の日は、65歳以上の方の入館料を無料とします。

### 展覧会

#### ◆テーマ展「ふしぎな縄文」

令和6年6月8日(土)～8月25日(日)  
会場：2階・オザワ工業ギャラリー(特別展示室)  
縄文時代には一般に知られる土器や石器以外にも、変わった形、作られた目的や使い道も不明な出土品が数多く知られています。それらは同時に造形としての面白さも備えています。本展では主に岩手県内から見つかった不思議な資料を一堂に集め、縄文時代の奥深い魅力をご紹介します。

#### ◆展示解説会

6月15日(土)、7月13日(土) 各13:30～14:30  
会場：特別展示室、当日受付、要入館料

#### ◆こどもジョウモン教室

7月27日(土)、29日(月)、8月5日(月)、10日(土)  
各13:30～14:30

#### ◆テーマ展関連日曜講座 当日受付 聴講無料 13:30～15:00

6月23日 講師：金子昭彦(当館学芸課長)  
7月14日 講師：吉田泰幸氏(盛岡大学准教授)  
望月昭秀氏(縄文ZINE編集長)  
8月11日 講師：高木 晃(当館学芸課長)  
8月25日 講師：米田 寛(当館学芸員)

※詳細は下記「県博日曜講座」の欄をご覧ください。

#### ●企画展「捕食者の献立」

令和6年9月28日(土)～12月1日(日)  
会場：2階・オザワ工業ギャラリー(特別展示室)  
肉食獣や猛禽類、海鳥やクジラ類など大型の捕食者と、彼らの多種多様な食事内容をご紹介します。

### 県博日曜講座

#### 第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

#### \*展覧会関連講座

6月 9日 「平安時代の御所野遺跡とその周辺」  
丸山浩治(当館学芸員)

\*6月23日 「可愛い・やばい・神対応の縄文土偶」  
金子昭彦(当館学芸課長)

\*7月14日 対談「縄文のふしぎ」  
吉田泰幸氏(盛岡大学准教授)  
望月昭秀氏(縄文ZINE編集長)

7月28日 「生命史をひも解く 古第三紀」  
望月貴史(当館学芸員)

\*8月11日 「山と縄文人」  
高木 晃(当館学芸課長)

8月25日 「旧石器時代の変なモノ～旧石器人は何を描いたか～」  
米田 寛(当館学芸員)

9月22日 「岩手の民俗(仮)」  
川向富貴子(当館学芸員)

### 観察会・見学会

#### ◆第87回地質観察会

令和6年7月7日(日) 10:00～15:10 要事前申込  
講師：大石雅之氏(当館研究協力員) 場所：二戸市白鳥川周辺  
定員：20名程度(小学生以上、小学生は保護者同伴) 参加費：100円  
募集期間：6月6日(木)12:00～6月11日(火)16:30  
定員充足したい締切  
電子メールのみの受付。詳細は決定次第、ホームページに掲載します。

#### ◆第86回自然観察会

令和6年7月下旬 要事前申込  
場所：大船渡市  
詳細は決定次第、ホームページに掲載します。

### 夏休みの催し

#### ◆こどもジョウモン教室

令和6年7月27日(土)、29日(月)、8月5日(月)、10日(土)  
13:30～14:30  
ホンモノの土器や石器を見て、さわって、感じてみよう！  
定員：小学生とその保護者 10組 当日受付  
参加希望者多数の場合抽選

#### ◆ナイトミュージアム

令和6年8月9日(金)、10日(土) 要事前申込  
要入館料(高校生以下無料) 16:30～17:30(16:00までに入館)  
ふだんは見ることのできない閉館後の展示室を学芸員といっしょに歩き、新しい発見をしてみませんか？  
定員：20名(小学生～中学生とその保護者)  
募集期間：令和6年7月17日(水)9:00～7月21日(日)  
専用メールアドレスへ申込、抽選制、一度に5名まで予約可能です。  
詳細は決定次第、ホームページに掲載します。

#### ◆ワードクイズ

令和6年7月23日(火)～8月9日(金) 開館時間内随時  
要入館料(高校生以下無料)  
クイズをときながら展示室をたんけん！3種類のクイズシートから、えらんでちょうせんしよう！

### 週末の催し

#### ◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○6月1日 石川県復興応援  
種まく旅人～蓮華のかがやき～ (実写/108分/一般向け)

○7月6日 夏休み直前アニメスペシャル  
シンデレラ 秘密のプリンス (アニメ/87分/幼児～小学生向け)

○8月3日 夏休みアニメスペシャル(フィルム映画)  
星の子ヨピン (実写/70分/幼児～小学生向け)

※9月はお休みします。

#### ◆チャレンジ！はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜(9月は第3・第4) 小学生向け 随時受付  
チャレンジ！マークをさがしてはくぶつかんをたんけん！  
6月 8日・9日・15日・16日 テーマ：青(あお)  
7月13日・14日・15日・20日・21日 テーマ：海(うみ)  
8月10日・11日・12日・17日・18日 テーマ：宝(たから)  
9月14日・15日・16日・21日・22日・23日 テーマ：土(つち)

#### ◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30  
幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度  
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。  
※全プログラム有料です(材料費/プログラムごと異なります)。  
※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

6月	2日	チャグチャグ馬コづくり	8月	4日	化石のレプリカ★
	9日	カラフルクモづくり		11日	天然石のフォトフレーム★
	16日	アンモナイトの消しゴムづくり		18日	土器づくり
7月	23日	まが玉アクセサリー	9月	25日	3Dメガネで万華鏡
	30日	土偶づくり		9月はお休みです	
	7日	スライムであそぼう			
	14日	ちぎり絵のうちわ			
7月	21日	紙コップのあやつり人形			
	28日	ミニさんさだて★			

★印は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回あります。

### 利用のご案内

- 開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)
- 休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)  
※7月29日(月)、8月5日(月)、8月13日(火)は開館します。  
※9月1日(日)～10日(火)は、資料整理のため休館します。
- 入館料 一般330(150)円・大学生150(80)円・高校生以下無料  
( )内は20名以上の団体割引料金  
※9月16日(月)敬老の日は、65歳以上の方の入館料無料。  
※若手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。  
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。  
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第181号 令和6年6月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595
-----------------------------------	---